

# 検査部

## 業務内容

検査技師の業務は多岐にわたっております。  
生化学検査、血液検査、輸血免疫検査、一般検査、病理細胞検査、生理検査、遺伝子検査と一般的に行われている病院検査を計 70 名のスタッフで担当しています。また周辺のサテライトクリニックへも検査スタッフを派遣し、当日に検査結果を提出して迅速な診断に寄与しています。そして夜間の体制は 2 名の検体検査と 1 名の生理検査、内視鏡呼出しも 1 名が待機し、夜間の緊急検査に応じています。更に外来で行う採血もほぼ検査部スタッフで行うことでタスクシェアを実現し、看護師や医師との業務連携を図っています。

## 業務実績

月平均

検体検査	21635 件/月
心電図検査	6142 件/月
腹部超音波検査	3288 件/月
心臓超音波検査	2255 件/月

### 【論文】

加賀谷範芳,小野祐太郎,佐藤勉,SARS-CoV-2 感染患者受け入れによる検査体制の変化と再編成に向けた試み,神奈川県臨床検査技師会雑誌,2021 年,173 号

### 【学会発表】

1. 倉本大輔,2021 年 10 月 8 日,第 53 回 日本医療検査科学会,「AIA-CL2400 を用いた HBs 抗原測定法及び HBs 抗体測定法の性能評価」
2. 倉本大輔,2021 年 12 月 28 日,第 70 回 神奈川県医学検査学会,「尿中に Colpoda steini を同定した一例」
3. 程島就,2021 年 11 月 20 日,第 60 回 日本臨床細胞学会秋期大会,「心臓原発血管肉腫の 1 例」
4. 佐藤勉,2022 年 2 月 23 日,第 55 回 日本臨床腎移植学会,「移植前 HLA 抗体検査にて非特異反応が示唆された一例」

5. 加賀谷範芳,2021 年 10 月 2 日,第 57 回 日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会,「自動搬送システム導入による Turn Around Time の変化」
6. 加賀谷範芳,2021 年 12 月 28 日,第 70 回 神奈川県医学検査学会,「検体搬送処理システムと自動脱荷・自動送信ステーションの導入による、早朝検体処理の改善について」

## その他の活動

### 【医療講演】

Web 公開医学講座（毎月） 加賀谷 範芳  
睡眠時無呼吸症候群の検査 ～そのいびき、その眠気、病気かも～

### 【依頼講演】

- ・ Lilly NSCLC Symposium in Kanagawa
  - 演題名：「市中病院オンコマイン DxTT マルチ検査の現状とこれからの課題」
  - 演者：程島 就
- ・ 第 8 回 徳洲会病理部会学術集会
  - 演題名：「当院での液状化検体細胞診 ThinPrep5000 機器導入による標準化への取り組み」
  - 演者：小保方 和彦

# 検査部

---

## 展望/抱負

2021 年は新型コロナウイルス感染症のパンデミックが始まり 1 年が経過しました。初めての経験から前が見えない手探り状況と、それを打開するために走りながらの検査体制確立はスタッフの大きなストレスではありましたが、努力の甲斐があって大きな問題もなく迅速な検査の対応ができました。その大規模なパンデミックのために全世界的なサプライチェーン問題は当検査部へも大きく影響を及ぼしましたが、資材課の協力により要求される検査をそつなく対応できた事は奇跡に近いと感じています。そのような中、検査部の大プロジェクトの一つである採血室のリニューアルオープンに向けての準備と検体搬送ラインの安定化を図り、採血から検査結果報告までの時間短縮を念頭に大きく前進した年でもありました。2022 年は患者待ち時間の短縮や検査精度を高め、患者満足度を向上させられるよう更なる患者中心の検査部を構築してまいります。